

質問（16条関連）

せん断ひび割れの生じない梁材のカットオフ筋構造規定 p.224

せん断ひび割れの生じない梁材で、付着長さが  $l'$  以上、(16.6) 式で満足する場合、 $l' + d$  の構造規定は準拠しなくてもよろしいでしょうか。

（匿名希望）

回答

p.205 図 16.2 の  $M'$  は通し筋のみの断面の許容曲げモーメントで、鉄筋の許容引張応力度で定まったとします。梁の左端でも通し筋の応力度は許容引張応力度と考えられますので、 $l'$  の領域で通し筋の応力度は一定と仮定したことになります。しかし、カットオフ筋が不要となる断面における通し筋の実際の応力度が許容引張応力度よりも小さければ、カットオフ筋の付着長さが  $l'$  では足りなくなることが考えられます。このような状態は起こり得ます。16条1項(4)1)の構造規定は、曲げモーメントに対して十分な鉄筋が配置されるよう定めたものです。したがって、(16.6) 式による付着応力度の検定にかかわらず、満足する必要があります。